

商品学と工芸史のはざま

一橋大学と山口大学の所蔵資料から考える商業教育史

日時 2019年11月8日（金）15:15～18:30

場所 一橋大学 国際研究館3階 会議室

一橋大学の東本館には、商品陳列室・商品標本室と呼ばれる部屋があり、商品学に関する多種多様な資料が所蔵されています。現在、言語社会研究科と経営管理研究科の協働プロジェクトとして、環境整備と資料整理を進めています。一方、山口高等商業学校を前身とする山口大学経済学部は、1995年に全国的にも珍しい商品資料館を新設しました。そこには8,000点の資料が収められ、なかでも陶磁器は重要なコレクションになっています。今回のシンポジウムでは、明治期に商品陳列所（陳列室）を整備した両大学の歴史を振り返り、商品学と工芸史が交差する領域に光を当てます。

登壇者

成富敬（山口大学経済学部教授・商品資料館企画室）

櫻庭総（山口大学経済学部准教授・商品資料館企画室室長）

宮川智美（大阪市立東洋陶磁美術館学芸員）

小泉順也（一橋大学大学院言語社会研究科准教授）

手塚恵美子（一橋大学研究補助員）

主催 一橋大学大学院言語社会研究科

協力 山口大学経済学部

問い合わせ先 lan-km.g@dm.hit-u.ac.jp

定員 先着40名 | 事前予約不要